

令和3年度 第2回 こども部会 会議録

【日 時】 令和3年10月20日(水) 13:30~15:00 つるぎ町役場 分館 2階

【参加者】 発達障がい者総合支援センターアイリス、池田学園、池田支援学校、美馬市長寿障がい福祉課
美馬市こどもすこやか課、美馬市教育委員会教育研究所、つるぎ町福祉課
つるぎ町保健センター、つるぎ町立半田病院、ピース、児童デイワンハート穴吹
障害者支援センター小星園、障害者支援センターかしがおか、相談支援センターイノセント

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1、地域課題等について

○令和元年度までに出された、美馬市・つるぎ町における地域課題(こどもに関する)について

①児童の短期入所について

・近隣では池田学園や未来がある。池田学園の短期入所の定員数は3名。現在はコロナの感染予防の為受け入れを制限しているが例外的に、緊急性が高い場合と入所を前提として短期的に利用するケースがある。地域生活支援拠点「青空」が設置されたが、児童で緊急性が高い場合はまず池田学園が受け入れ先になる。受け入れが難しい場合は青空と調整をし、対応を検討していく。

②ヘルパー事業所について

・近隣地域に医療行為が出来るヘルパー事業所が少なく、過去にサービス部会で事業所向けにアンケート調査を実施、状況把握等を行った。医療が必要な方は地域外に転居するケースもあり、対象者がいないため医療行為を実施していないという現状がある。

③行動障がい者に対する支援(受け入れ先)について

・現在においても行動障がいのある方の施設入所の受け入れが難しい現状があり、徳島県障がい者自立支援協議会に美馬市・つるぎ町障がい者自立支援協議会から課題として提案している。専門家を交えて協議を行っており、支援者のスキルアップの為の研修やスーパーバイザーの利用など支援の仕組み作りに取り組んでいる。状況については定例支援会議で報告を行う。

④重症心身障がい児・者に対する支援(日中の受け入れ先等)について

・西部圏域では多機能型通所支援事業所ひまわり(三好市)があり、定員は5名。吉野川市にはナーシングホームあおいそらがある。

⑤小児の言語訓練について

・言語訓練のニーズは多く、家族と関わる際に相談を受ける事がある。こども版障がい福祉のしおりに小児リハの情報を記載している。利用する子どもが多く、空きがない時期があったが現在は空きはある様子。

・半田病院の言語聴覚士は高齢入院患者の治療目的で嚥下指導等を実施しており、小児の指導は行っていない。過去に教育委員会から児童の訓練の要望があったが、特に県西部は言語聴覚士が少ない現状がある。県内で資格取得が出来たり、人材を育成できるような仕組みが必要。

⑥通所支援事業所(児童発達支援、放課後等デイサービス)の空き状況について

・ピース(放デイ):火曜日と金曜日以外の曜日であれば1,2名程空きがある。令和4年4月からは卒業生がいるので2名空きが出る。

・ワンハート穴吹(放デイ):金曜日以外は2名程度空きがある。令和4年4月から卒業生がいるので3名程度空きがある。

・イノセント:児童発達支援は現在空きがなく、4月以降も空きがない。放デイは今年度3月までであれば曜日により空きがあるが、4月以降は空きがない。(児童発達支援の場合、保育所や認定こども園と並行通園をする場合がある為、希望があれば待機待ちは可能。)

*意見交換:健診後に発達支援の必要性や療育のニーズがあってもすぐに利用が出来ない場合、利用を断念してしまうケースがあるのでタイムリーな時期に発達支援が受けられたらと思う。専門職(STやOT)から助言を受ける事で家庭の中での取り組みに活かすことが出来る。児童発達支援センターすぎのこやどんぐりは周辺地域のこどもの利用が多く、定員もいっぱい。

2、障害児通所支援の在り方について

・平成24年の児童福祉法改正により、障害児施設・事業が一元化され、障害児通所支援事業がスタートした。ここ10年間で事業所数が増加しており、特に知識及びスキルの向上などの支援の質の確保が課題になっている。(障害福祉サービスの報酬改定は3年ごとに実施され、サービスの見直し等が行われている。)

3、今度のこども部会の取り組みについて(グループに分かれて協議)

・保育所等に通っているこどもが一番成長できる時期に事業所の定員の関係で利用が出来ない。感覚統合を受けられる所が少ない。

・学校と関係者の見立て(支援の必要性の有無)が異なり、家族が混乱する事がある。支援学級担任が障がい児支援の経験が浅く、対応に困る事がある。学校で障がい関係の研修はないのか。あっても機会が少ない様子。

・ひきこもりの児童について、手帳未取得やかかりつけ医がない等のケースが多く、福祉サービス支給決定の対象にならない児童が多い為、サービスに繋がりにくい。

・池田支援学校美馬分校に中学部も出来たらいいと思う。

・今後のこども部会の取り組みとして、研修を実施していきたいが、保育士が業務で忙しく、なかなか研修に参加出来ない。支援者向けの研修を検討していきたい。アイリスでは専門家(発達デコボコサポートチーム)が訪問して、アドバイスを行う事業がある。

・現場での支援に活かせる、スキルアップしていけるような研修に参加したい。徳島市内など研修会場が遠方な場合が多いので近隣で開催されると参加しやすい。

・家族がこどもの障がいを受け入れていない、理解出来ていないケースが多く、介入が難しい。学校や他機関等との連携は必須。

・半田病院の小児神経外来は月2回だが診察を受けに来るこどもが多い。(特に午後からの診察が多い。)来院出来ることは大事だが、病院だけフォローしていく事は難しい。

・医療的ケア児の支援について、徳島県では支援センター開設のめどが立っていない状態で課題は残ったままになっている。

・不登校に対する支援について、ひきこもり支援と同様にサービスに繋がりにくい状態。行政としては意見書があれば支給決定は可能だが、その意見書作成に至るまでが難しい。ワンハートでは不登校の児童が利用していたが、事業所が家庭と学校の間のワンクッション的な役割となり、現在は登校出来るようになったケースがあった。

*次回、12月開催予定。